

公立阿伎留医療センター職員のコロナワクチン接種後の副反応報告

院内新型コロナウイルス感染症対策本部
本部長・院長 荒川 泰行

ワクチンは、一般に個人の健康管理のツールあると同時に、“集団免疫”を形成するという社会の危機管理のツールでもあります。今回のような新型コロナウイルスによる大規模感染災害が引き起こされているような場合には、ワクチンを接種することのメリットが接種しないことのデメリットを大きく上回ります。もちろん任意ではありますので、個人の任意の判断で、接種によって得られる利益と、副反応などのリスクを比較して接種の是非を意志決定する必要がありますが、ワクチンは新型コロナウイルス感染対策の切り札となります。自分を守り、家族を守り、そして地域を守るという便益を考え、かつワクチン接種の意義を正しく理解して特別の事情がない限り接種されることを勧めております。

しかし、どのようなワクチンでも、生体に接種する限りそれは異物でありますので、接種後に免疫反応が誘起されて多少の副反応(副作用)が生じますが、決して珍しいものではありません。副反応をゼロにすることは困難でありますので、「副反応が怖い」という方もいらっしゃると思います。

公立阿伎留医療センター職員の新型コロナワクチン接種は、医療従事者の優先枠で第1回目を3月15日～3月19日の期間に、第2回目を4月5日～4月9日の期間に、そして第3回目を12月6日～12月10日の期間にそれぞれ3回実施しました。接種した職員のうち、副反応のアンケート調査に協力が得られた1回目接種後546名、2回目接種後520名3回目接種後483名について、院内新型コロナウイルス感染症対策本部でその調査結果の集計と評価を行いましたので報告します。

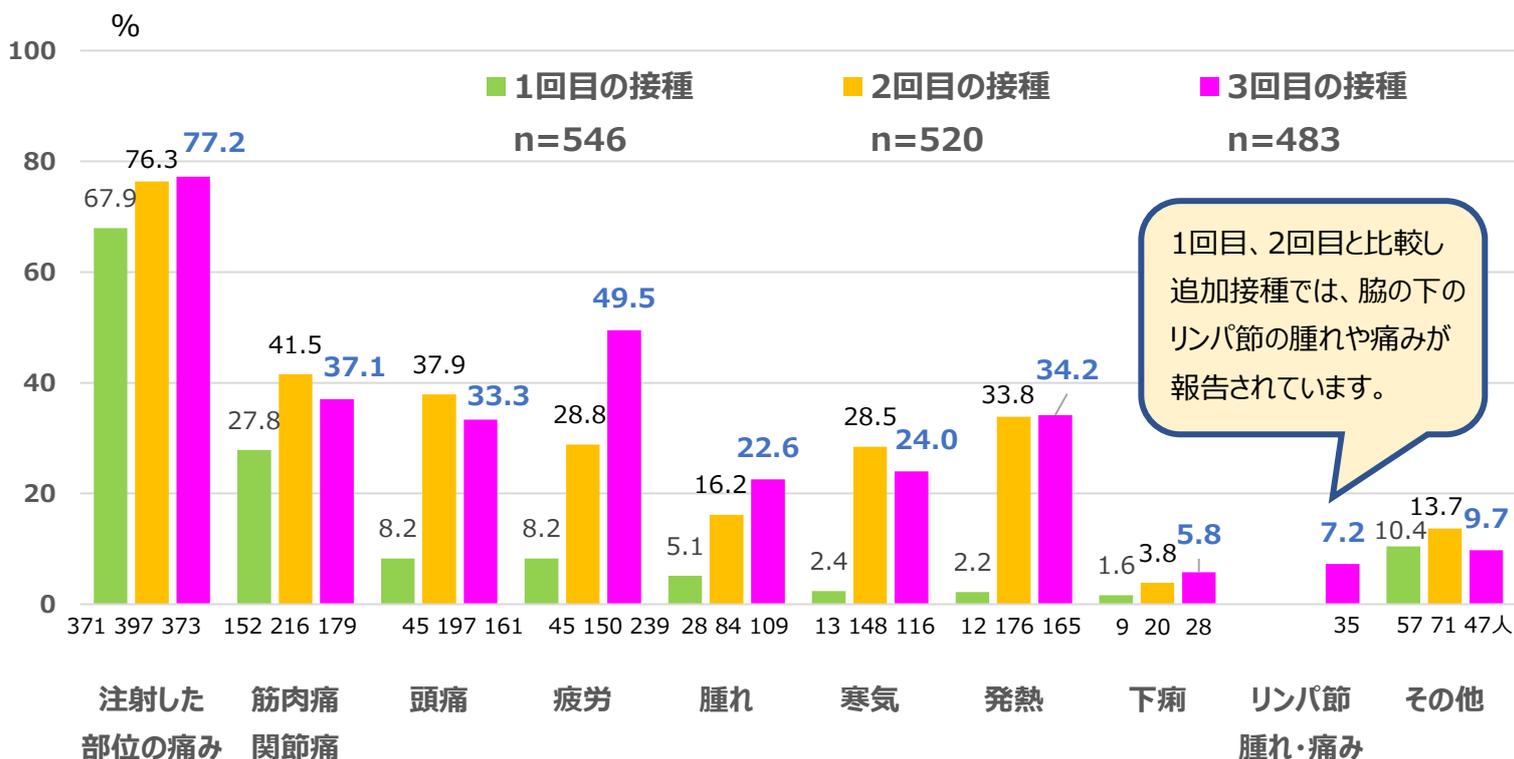
当院職員の新型コロナワクチン接種後の主な副反応をみますと、全体として1回目より2回目と3回目の方が多く認められました。2回目よりも3回目の方が副反応が増加する印象がありますが、今回の結果からもそれほど2回目と変わらないようです。また、1回目と2回目を比較し、3回目の追加接種では、脇の下のリンパ節の腫れや痛みが報告されています。性別で見ると、注射部位の痛みでは顕著な差がみられませんでしたが、筋肉・関節痛や発熱で見ると、女性の方が多く認められました。また、年代別では、高齢層よりも若年層の方が多く認められました。なお、重症な副反応の事例はみられませんでした。

したがって、諸報告と同様に、新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応は、1回

目よりも 2 回目と 3 回目後に、高齢者よりも若年者の方に、また男性よりも女性の方に出る頻度が高い傾向があります。高齢者に比較的少ないのは加齢に伴う免疫低下が背景にあると思われます。また、男性よりも女性に多いのは、エストロゲンやプロゲステロンなど女性ホルモンの働きにより、女性はもともと男性よりも免疫反応が強い傾向にあります。この傾向は、様々な感染症に対して強い抵抗力があるという利点をもたらす一方で、体内の免疫反応を利用して特定の病原体に免疫を付けるために接種するワクチンでは、過剰な免疫反応が発生して副反応(副作用)が起きやすくなる一因ではないかと推測されます。

公立阿伎留医療センター職員

新型コロナワクチン 症状別副反応調査結果（1回目・2回目・3回目）



1回目：3月15日～3月19日

2回目：4月5日～4月9日

3回目：12月6日～12月10日

3回目接種対象：2回目接種から8か月経過した当院職員（希望者）505名（回収率 95.6%）

3回目接種後の副反応（男女・年代別）

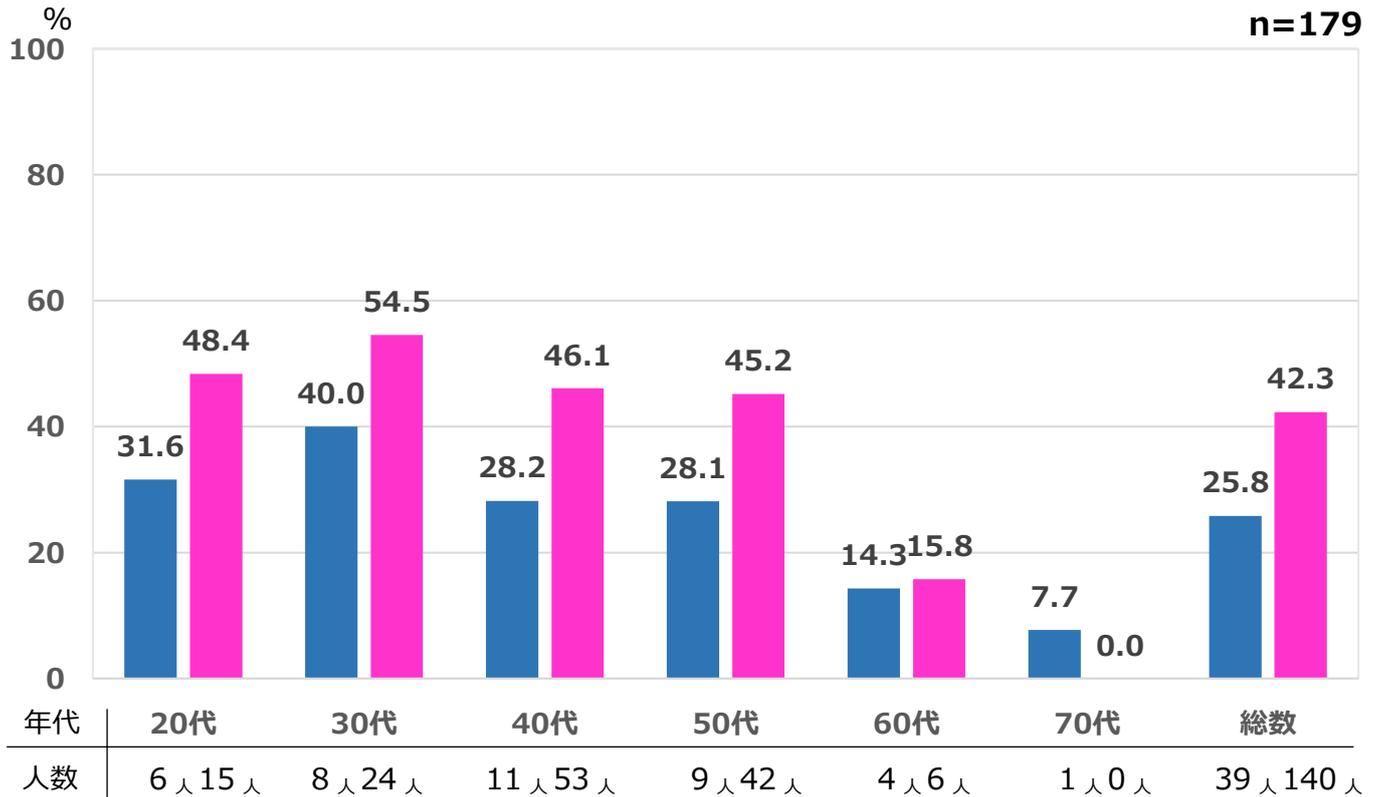
注射した部位の痛み



筋肉や関節の痛み

■男 ■女

n=179



発熱

■男 ■女

n=165

